



嗚呼、青春の部活動

原田先生にテーマ「青春」のおすすめの本を紹介して頂きました！ 興味深い本がたくさん挙げられています。僕個人としては、最後のひとことにとっても共感しました。

【原田先生の紹介本】

高校生と「青春」を結びつけるものと言えば、真っ先に部活動が思い浮かぶ。私の高校時代より、教員として部活動に関わった方ははるかに長いので、どうしてもそちらに思いが向かう。中でも印象深いのが、演劇部の顧問をしていた時のことだ。秋の大会に向けて夏休みに劇を作り上げていく。脚本の解釈をめぐって意見をぶつけ合い、よりよい劇に仕上げていく過程は「青春」と呼ぶにふさわしかった。高校演劇界では有名な脚本の力もあり(興味がある人は『トシドン』の放課後』で検索を)、思いのほか評価は高かったものの、あと一步で上位大会進出を逃し、部員たちが涙したのも、また「青春」だ。



ところで、高校の部活動を題材にした本は数多い。陸上の四〇〇メートルレーを題材にした『一瞬の風になれ』(佐藤多佳子・講談社文庫)、弱小バスケ部が舞台の『走れ！T校バスケット部』(松崎洋・幻冬舎文庫)、吹奏楽を題材にした『響け！ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部へようこそ』(武田綾乃・宝島社文庫 アニメもあるけどこちらが原作)など、挙げればキリがない。部活をしている皆さんは、ぜひ自分の部を題材にした小説を探してみては？



第68回 青少年読書感想文 全国コンクール 課題図書

建築家になりたい君へ
限 研吾 / 河出書房新社

「ほろい家」に育ち、建築家を夢見てアフリカやアメリカへ。難題だらけの仕事にどう挑むのか。日本を代表する建築家が今伝えたいメッセージ。

その扉をたたく音
妹尾まいこ / 集英社

29歳、無職。等はミュージシャン。人生に行き詰まっていた青年と、老人ホームで出会った「神様」との奇跡の夏が始まる――。

クジラの骨と僕らの未来
中村 玄 / 理論社

骨格に興味を持ち、ペットの墓あほきから始まった少年の好奇心。ついに哺乳類最大のクジラの博士になるまでを生き生きと描く。

** 夏休み図書館カレンダー **

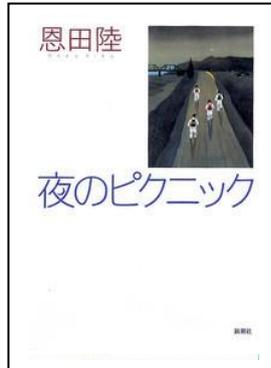
月	火	水	木	金	土	日
7月 19	20	21	22	23	24	25
○	○	○	○	終業式	×	×
25	26	27	28	29	30	31
○	○	○	○	○	×	×
1	2	3	4	5	6	7
○	○	○	○	○	×	×
8	9	10	11	12	13	14
×	○	○	山の日	学校閉鎖日	×	×
15	16	17	18	19	20	21
×	×	×	○	○	×	×
22	23	24	25	26	27	28
○	○	○	○	○	×	×
29	30	開館時間 8:30 ~ 16:00		31	○	○
○	始業式	8:30 ~ 16:00		×	○ → 開館	×

※水分補給は、図書館の外でしてね。

「青春」の本を紹介!!



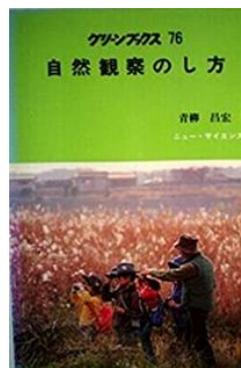
バレー部のキャプテンであり、エースである桐島がある日、部活を辞めた。そこから周りの人たちの物語が動き出す。桐島が部活を辞めて、桐島のポジションにつけるようになった風助。片思いで想いが届かない吹奏楽部の亜矢。目立たない映画部に力を入れる前田。父と義理の姉を失い悲しみに浸るソフト部の実果。スポーツ万能だが自分自身が何をしたいのか悩む菊池。この本は悩みを抱えながらも前進していく感動的な青春物語です。ぜひ読んでみてください。



この本は、高校生活最後の行事である「歩行祭」での出来事を書いた物語である。主人公である北高3年生の西脇融と甲田貴子の両視点で物語が進んでいく。登場人物の心情や歩行祭で歩いているときの景色などが描かれていて、自分も歩行祭に参加しているような気分になる。とてもメジャーな青春小説なので、機会があったら読んでみてほしい。そして、この本の登場人物たちのように高校生活を楽しんでほしい。



この本は、幼い頃に柔道に打ち込んでいた主人公の晴希が怪我をきっかけに柔道部を退部し、幼馴染の一馬と男子のみのチアリーディング部を結成して、人集めから大会にまで挑戦する青春物語です。登場人物全員にスポットがあたっているのでもっともおもしろいです。部員それぞれの事情や頑張る理由が重なり合い、ひとつにまとまっていく様子が「いいな」と思いました。また、部員の成長を感じられるのが面白いとも思いました。



青春とはなんでしょう？ 部活をすることだけでなく、夏休みに友達と自然観察をするのも青春と呼べるのではないのでしょうか。この本では、自然観察とは何かという大前提から、必要な道具、方法、わかること、更には環境汚染についてなど、自然観察の仕方を理解すると同時に、自然により深い興味を持つこともできます。この本を読んで自然観察に興味を持ったなら、是非、自然観察に行ってみて、青春を謳歌してください。